大槻重之著

インドネシア専科

第 10 巻　Ｈ文化編

表紙絵清原嘉彦

戦前、北スマトラ・トバ湖周辺に会社が植林した跡を先輩達と訪ねた折、Tongging という集落を訪れた。地元行政の偉い方が御幸されたのか、野外で歓迎コンサートが行われていた。
二弦の琴や笛、木琴等、遠い昔のシルクロードの流域の一つか？と、暫し聴き慣れぬバタックのメロディーに聴き入った。

まえがき

本第 10 巻でもって「インドネシア専科」は最終巻となる。専科の語呂からこだわった全 1000 項目の大団円である。インドネシアへのこだわりへの集大成である。思い返せばほぼ半生を費やした“私のインドネシア”はインドネシアとの対比による日本の発見であった。たまたま仕事の都合で付き合うことになったインドネシアとの切っ掛けであるが、ここまで執着し続けたのはインドネシアという他国の理解によって日本の理解が深まり、貴重な私の経験則となった。

ところで「インドネシア専科」の原稿は 10 年前にできあがっており出版に備えていた。各編が偶数ページで終わるようにしたのは全 1 冊にまとめる際に、各編の間に色仕切紙を入れても項目番号とページ数が一致するための配慮である。

1000 項目に固執してきたが、冊子化を機会に 2 項目（「028ex.スマトラ沖地震」と「751ex.イスラム過激派の台頭」）を追加したので 1002 項目である。

今回「インドネシア専科」として冊子にしたのは、表裏の自動コピー、ソートなどの機能のあるコピー機が身近で利用できることが分かり、ボランティア活動でコピーを冊子にする機会が度々あったことから自分でコピー製本をすることを思い立ったものである。試行錯誤の結果、10 巻目にしてようやく製本のスタイルも格好がつくようになった。

「インドネシア専科」は既にインターネットでHPとして公開しているにもかかわらず、私自身の活字へのこだわりは捨てされなかったのは、本来的には活字文化によって育てられた活字人間だからであり、インターネットへの不信感は抜きがたい。恐れていたように冊子刊行化の途中で「インドネシア専科」HPの修正機能がこわれたので、HPは社会編（第 7 巻）以降、現状放棄になっている。冊子化が完成した以上は今更HPを修復するつもりはなく適当な機会に引退させたい。

さて本巻『文化編』であるが、インドネシア文化といえばワヤン、バティック、舞踏など伝統文化の存在が顕著であり、「H-1 章・伝統文化」「H-2 章・伝統工芸と伝統家屋」をこれにあてた。これらは顕在化して目に見える文化であるのに対し、インドネシア人の伝統文化の基盤であるラーマーヤナ、マーバラタのインド神話、インドネシア固有の神話と深く結び付いている精神世界を網羅した。

言語としてインドネシア語がインドネシアの存在自身にかかわる問題であることから一章を設けた。「H-3 章・神話の系譜」と「H-4 章・インドネシア語」は本「インドネシア専科」独自に生み出した文化編の体系化として自負するものである。

「H-5 章・インドネシアの書籍」「H-6 章・国民文化の創造と交流」は分類の仕方が分からなかったもの最後に集大成したものであるが，無理をして集めた感は否めない。

全 10 巻のまとめとして末尾に「全巻目次」「索引」をつけたが、「索引」はページ数の制約のため大幅圧縮に努めた結果、カタカナ表示分だけに限定せざるをえなかった。「索引」の作成のため全巻をレビューすると用語の不統一などがかなり存在し、日本語の文章では漢字の使い方もさることながらカタカナの表記法の厄介さを改めて感じた。

本来ならば最終巻には「参考図書」「年表」「地図」「web リスト」も作成し完璧を期したいところであったが、エンドレスに陥ることをおそれて断念した。

表紙に清原嘉彦さんにインドネシアの絵をお願いし、全 10 巻の絵を提供いただいたのみならず、コメント

までいただき各巻に記載している。おかげで立派な表紙に中身が伴わず、まさに羊頭狗肉である。清原さんの御好意に改めて謝辞を申し上げたい。

平成 20 年(2008)12 月
著者しるす

追記
10 年前の原稿であるからその後のインドネシアの変遷により現時点での見直しは必要箇所は隋所にある。抜本的見直しは行わずに枠組みを維持したままの修正である。選定した 1000 項目であるから、現時点で見れば差し替えた項目もあるが、注で補い2項目だけ追加した
全編を通してであるが、本文に記載するカタカナ表記のインドネシア語には可能な限り原語の綴りを付記した。カタカナ表記は分散しており、本書では「インドネシアの事典」に準拠して統一したが、索引を作成の際にインターネット検索ではカタカナ表記はローマ字表記のヒット数がはるかに多く情報量の差に圧倒的格差があるからである。
バティック 37 万バチック 1.5 千件ジャワ更紗 24 万件 batik990 万件

投下資本は大ホッチキスだけである。製本も試行錯誤の結果、カッターを利用することで 10 巻目にしてようやく格好がつくようになった。

ウェブはインターネットによって世界中で利用可能であり、項目間のリンク、写真へのリンクなどHPの利点がわかり、また変動するインドネシア状勢にあわせ適宜加筆や修正を行うことができるなどの書籍に求め得ない機能に満足した。HP開設以来、「インドネシア専科」は然るべきインドネシア情報のインターネットからリンクされ、それなりの評価をえたと自負している。

++

編者前書き
2018 年に亡くなった大槻重之さんから、この「インドネシア専科」をもう一度インターネットに挙げてほしいと生前依頼されたのでここに編集して掲載するものである。
編集にあたって、巻末の注を脚注に異動し、必要に応じて「編者註」も追加したものである。
図と写真は編者が作成・撮影して本文に追加したものである。

2019 年 6 月

編者　田口重久 〈omdoyok@infoseek.jp〉

Ｈ:文化編目次

Ｈ－1. 伝統文化		936. 様々なハンドクラフト	36
903. 溢れる伝統文化	7	937. 霊宿る伝統家屋	29
904. ワヤン/ジャワ文化の精髄	7	938. ミナンカバウのルマ・ガダン	40
905. ワヤンの上演	8	939. 船型屋根家屋	41
906. 道化スマルの創造	9	940. トラジャのトンコナン	42
907. ワヤンのバリエーション	10	941. ダヤクのロングハウス	43
908. パンジ物語	11	942. プンリプラン村	44
909. ワヤンの将来	12		
910. ガムランの調べ	13	**Ｈ－3神話の系譜**	
911. ガムランの演奏	14	943. ジャワ島の創出	45
912. ジャワの宮廷舞踊	15	944. アレキサンダー大王	45
913. バリの奉納舞踊	16	945.「ラーマーヤナ」	46
914. レゴン/女性舞踊	17	946.「マハーバラタ」	47
915. ケチャ/集団舞踊	18	947. マハバラタの上演	48
916. バリの神前芸能	19	948. マハバラタの神々	49
917. バリのガムラン	20	949. ロロ・キドール女神	50
918. ジェゴグ/竹の合奏	21	950. ロロ・ジョグラン	51
919. バタック人のシガレガレ	22	951. ガルーダ/神鷹	52
920. ニアス島の走り高跳び	23	952. ハヌマン/猿神	53
921. マドゥラ島の競牛	23	953. ナーガとガネーシャ	54
922. タウタウ人形	24	954. バロン/善獣	55
923. スンバ島の騎馬戦	25	955. ランダ/バリの魔女	56
924. ダニ族の模擬戦争	26		
		Ｈ－4インドネシア語	
Ｈ－2伝統工芸と伝統家屋		956.インドネシアの言語	58
925. 工芸品の宝庫	28	957. インドネシア語の成立	58
926. バティック/ジャワ更紗	29	958. 国語の意味	59
927. バティックのデザイン	29	959. インドネシア語の普遍性	60
928. イカット/絣織物	30	960. 文字の変遷	61
929. 魂を織るイカット	31	961. マレーシア語との差	63
930. バリの工芸品	32	962. パントゥン詩	64
931. ガボガン/供物	33	963. サンスクリット系語彙	65
932. カマサン絵画	34	964. シンカタン/略語	66
933. バリの木彫り	35	965. ジャーナリズム	67
934. パプアの木彫り	36	966. 日本語との関連	67
935. クリス/工芸の極致	37	967. 日本語の片言隻句	69

H－5 インドネシアの書籍	
968.「ナーガラ・クルターガマ」	70
969. ラッフルズ「ジャワ誌」	71
970.「マックス・ハーウェラール」	71
971. ウォーレス「マレー群島」	72
972. マデロン・ルーロスフ「ゴム園」	73
973. カルティニ「光は暗黒をこえて」	74
974.「スカルノ大統領演説集」	75
975. プラムディヤ「人間の大地」	76
976.「スラット・ウラン・レー」	77
977. コバルビアス「バリ島」	78
978. ギアツ「劇場国家」	79
979. 観光案内書	80
H－6 国民文化の創造と交流	
980. インドネシア文化の成立	82
981. 底流のインド文化	82
982. 西欧文化の衝撃	83
983. インドネシア芸術	84
984. クロンチョンの旋律	85
985.「ブンガワン・ソロ」	86
986. イスマイル・マルズキ	87
987. インドネシアの音楽	88
988. 電波・文化の媒体	89
989. インドネシア文学	90
990. プラムディヤ・アナンタ・トゥル	91
991. インドネシア近代詩	92
992. 近代演劇のレンドラ	92
993. インドネシア映画	93
994. 女優クリスティン・ハキム	94
995. 近代絵画	96
996. 近代バティック	97
997. プリアタン歌舞団	98
998. インドネシア学	99
999. インドネシア人像	100
1000. 環太平洋・民話の環	100